

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第10号については最新の台風予報を参照。
- 30日は、前線が日本海から千島近海にのびる。
- 31日から9月1日は、低気圧がアムール川下流付近からオホーツク海に進む。日本海から黄海は気圧の尾根となる。
- 2日から3日は、気圧の谷が沿海州から北日本付近に進み、高気圧が中国東北区を東に移動する。日本のはるか東の高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が日本付近に流れ込みやすい状況が続く。

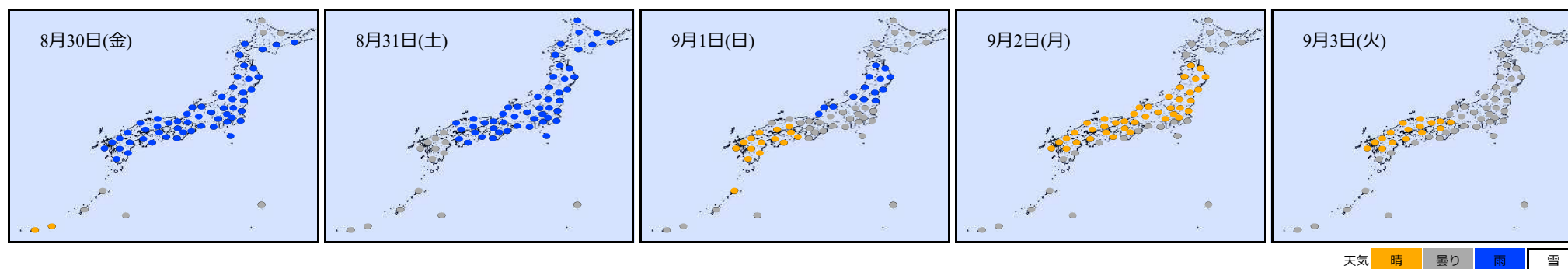
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 台風第10号の影響で、東日本と西日本では、31日頃にかけて大荒れや大しけ、警報級の大雨となる所があり、台風の動向等によっては、警報級の高潮となるおそれがある。東北地方では、31日頃は台風の動向等によっては、大荒れや大しけとなるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

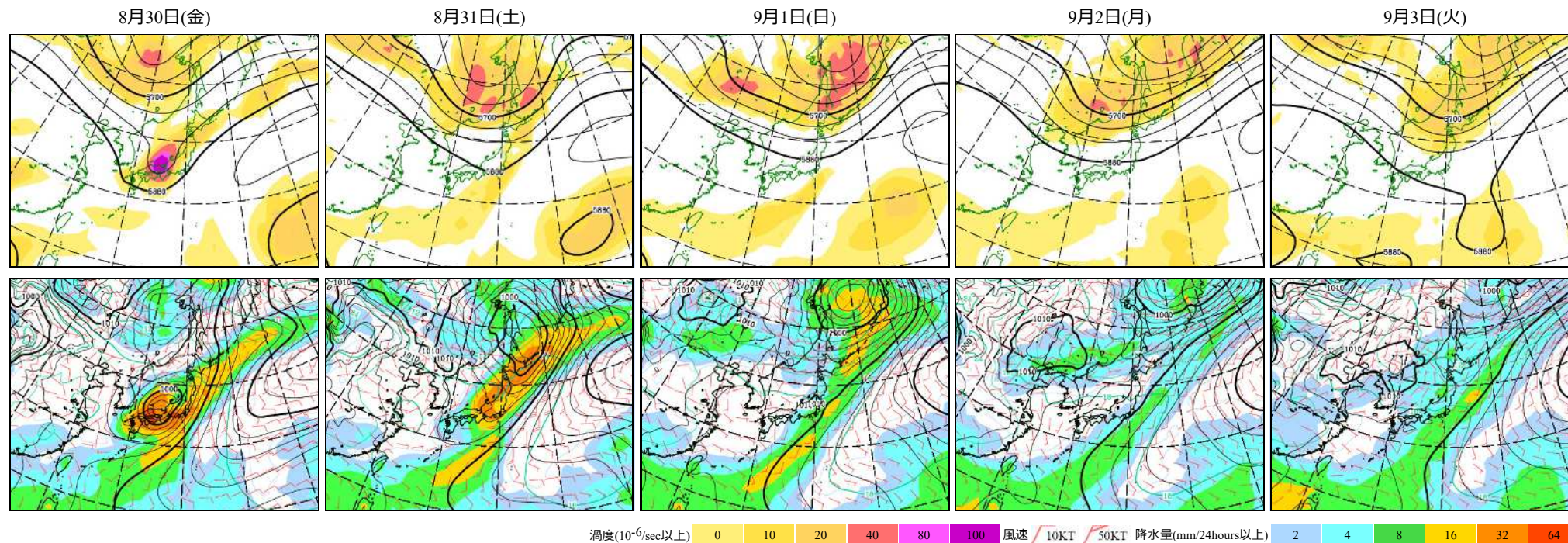
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

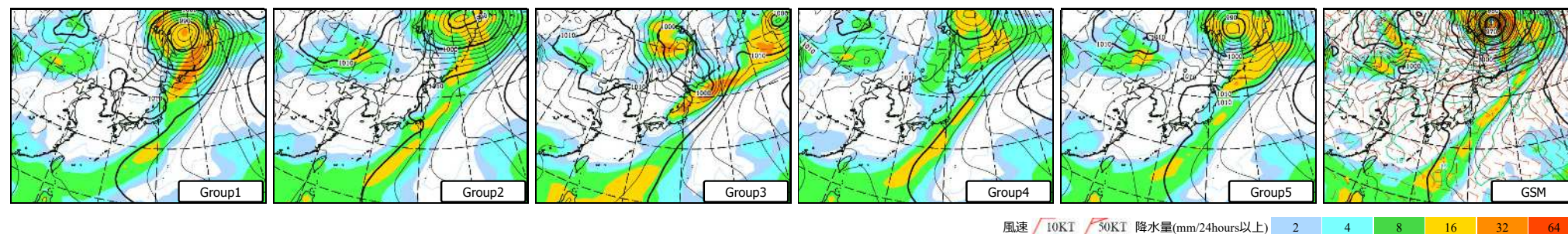


- 北日本と東日本は、30日から9月1日にかけては曇りや雨の降る所が多い。2日から3日は、曇りまたは晴れとなる。
- 西日本は、30日と31日は曇りや雨の降る所が多い。1日から3日は、晴れまたは曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、台風第10号は日本海への北上が遅くなり、31日頃に北日本を通過する予想となった。また、3日頃は北日本付近のトラフが深まり、北日本に進む気圧の谷が明瞭となった。
- 台風の動向については、初期値変わりやモデル間の差が引き続き大きい。31日頃以降は、ENSと台風予報が異なるため、31日から1日の降水分布は台風予報に近い海外モデルの降水予想を参考にする。
- ENSメンバーの中でも台風の進路や北上のスピードについてはメンバー間のバラつきが大きくなっている。海外モデルのように西・東日本付近をゆっくり東進するメンバーも2割程度は見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- おおむね最新のENSを基に予報を作成するが、台風第10号の影響については、最新の台風予報に基づく。